

22/6/23 名古屋市会本会議（名古屋城部分）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

議長：休憩前に引き続き会議を開きます。

第70号議案はじめ18件を一括議題とし、質疑並びに質問を続行します。

次に、上村みちよくんにお許しいたします。上村みちよくん。

上村みちよ(自民)：次に名古屋城二之丸庭園の整備についてお尋ねいたします。

私の選出区でもあります東区の皆様とお話する際に、徳川園や徳川美術館、建中寺の話題で、山車揃いや天王寺祭りを楽しみにするお声など、伝統文化への強い思いを聞くことが多くございます。

私の事務所がある白壁周辺にも古い町並みなどが残り、歴史文化が根付いた地域性を身近に感じることが出来ます。

名古屋の街作りは、今から400年以上前、徳川家康の名古屋城築城に合わせ、清洲から人も建物を総ぐるみで街を丸ごと移転したことに端を発し、東区はその際、武家屋敷や、寺町をもとに形づくられた、まさしく名古屋城のお膝元の一つであると思います。

そうしたことから、東区の皆様には、名古屋城に親しみを感じる方も多く、私も地元愛を込めて、日々名古屋城を眺めている次第でございます。

名古屋城というと、金のしゃちほこをいただく国内屈指の巨大な天守閣や、絢爛豪華な本丸御殿に目が行きがちですが、名古屋城にはもう一つ、あまり知られていない宝物がございます。

尾張藩の藩政を司ったとして、また藩士や家臣が暮らす場所として建てられた二の丸御殿とともに、造園された大名庭園、二の丸庭園でございます。

こちらのパネルをごらんください。

二之丸庭園は、緑色の部分で名古屋城の東側にあります。

黄色い部分が皆さんよくご覧になれる天守や本丸御殿ですので、いかに巨大な庭園であったかがおわかりになるかと思えます。

変化に富んだ地形の中に豪壮で細やかな意匠のほどこされた回遊式庭園など徳川御三家筆頭の尾張藩にふさわしく、城郭内の庭園として日本有数の規模を誇ったそうで、当時の名古屋城において、天守にも劣らない素晴らしいものであったと思えます。

しかし、惜しくもその多くは明治時代の旧陸軍への所管変更によって失われてしまいました。現在は国の名勝に指定されていますが、今後失われた部分を可能な限り復元することで、天守や本丸御殿に並ぶ目玉の一つとして、名古屋城の魅力を一層高める可能性を秘めているのではないかと思います。

そこで観光文化交流局長にお尋ねいたします。

まずは、名古屋城二之丸庭園に対する当局のご認識と今後の整備の方向性について伺いたいと思えます。

以上で1回目の質問を終わらせていただきます。

折戸観光文化交流局長： 観光文化交流局には、名古屋城二之丸庭園の整備についてお尋ねをいただきました。

名古屋城は戦前に城郭として国宝第1号となった天守や本丸御殿などの建造物、また当時の土木技術の粋を集めた石垣を擁し、日本の近世城郭の最高峰とされた城郭でございます。とりわけ二の丸庭園は、名古屋城の本質的な価値を構成する極めて重要な要素であり、現存する隅櫓や石垣等とともに、二の丸庭園も含めて総合的に整備することにより、壮大な城の魅力を最大限に伝えられるものと考えております。

そうしたことから今年の3月、庭園の歴史的な背景や価値を確認するとともに、今後の発掘調査や整備の指針となる長期計画、名勝名古屋城二之丸庭園整備計画を策定いたしました。この計画では、庭園全体を六つの区域に分け、まずは従来から進めてきた最初の区域の整備に取り組み、その後、他の区域も順次整備し公開していく予定です。

庭園全体が完成するには長い期間を要する計画ですが、全国に類を見ない名勝庭園である名古屋城二之丸庭園を現代に再現し名古屋城の魅力を一層高めるため、積極的に復元事業に取り組んでまいりたいと存じます。

以上でございます。

上村みちよ(自民)： 観光文化交流局長、ご答弁ありがとうございました。

天守や御殿だけでなく様々な要素が揃ってこそのお城であり、二の丸庭園も大切な歴史資産として積極的に整備していかれる方針との答弁をいただきました。

実はつい先日、名古屋城で二之丸庭園に関する企画展を拝見しましたが、そこで展示されていました江戸時代の庭園見取図。

御城御庭絵図からも二之丸庭園の壮大さが伝わってまいりました。

一方でそれなりの庭園があるゆえに、整備全体を得るまでには相当な年月がかかることが予想されていますので、少しでも早く市民の皆様に庭園の素晴らしさを体験していただくことも重要であると思います。

そのような中、二の丸庭園には、かつて余芳というお茶屋が建てられていたそうです。

こちらのパネルをごらんください。

先ほどお話しいたしましたには図に描かれた余芳です。

このように間取り図が書かれています。

もう1枚パネルをごらんください。これが余芳の姿です。

この写真は尾張藩の14代藩主の慶勝公が撮られたということで、とても貴重な写真だと思います。

かやぶき屋根の雰囲気の良い建物です。

もう一度ご覧ください。

この余芳は当時の部材が今も保存されているため、当時の姿に再建することが可能とのこと
です。

江戸時代に尾張藩主が庭園を散策された折には、きっとこの余芳で、四季折々の樹木や草花
が残る美しい庭園を眺めながら一息つかれたことだと思います。

当時の歴史を秘めた本物のお茶屋余芳の再建は、市民が二之丸庭園の素晴らしさを認識する
とともに、国内からの観光客に向けた名古屋城のあらたな観光魅力として非常に大きな意義
を持つものだと考えます。

ようやく海外からの旅行者の受け入れも議論され、観光需要の回復への期待も高まる中で、
名古屋を代表する観光資源の名古屋城にとっても、この余芳を一刻も早く整備することが必要
ではないかと思えます。

そこで、具体的にいつごろを目途にお茶屋余芳を再建するのか、再度観光文化交流局長にお
聞きしたいと思います。

折戸観光文化交流局長： 観光文化交流局に対しまして、名古屋城二之丸庭園の整備につい
て、お茶屋余芳の再建時期に関し、再度のお尋ねをいただきました。

第Ⅰ期整備としまして、池の修復や庭園復元を計画しておりますが、その中でご指摘のあ
りましたお茶屋余芳についても再建を進めております。

余芳は江戸期の二の丸庭園に実際に建てられていた四畳半のお茶屋であり、明治期に民間に
売却された後、本市にご寄付をいただき、解体した状態で保存管理しておりましたが、調査
により再建が可能であるとの結果が得られたことから、庭園内の元の場所に戻すための整備
に取り組んでいるところでございます。

議員ご指摘の通り、二の丸庭園の全体整備には長い期間を要するため、段階的に整備をして
いく中で、まずは余芳の再建を早急に進め、市民の皆様や観光客の方々にご覧いただきたい
と考えております。

かつて藩主が利用したであろう江戸期の本物のお茶屋が元の場所に再現されることは大変
大きな意義があり、二の丸庭園の新たな幕開けの象徴ともなる目玉事業として、また今後の
大きな観光資源としてⅠ日も早く実現してまいりたいと存じます。

再建に当たっては、有識者会議での議論や文化庁との協議を丁寧に重ねることが不可欠では
ございますが、具体的な整備時期としましては、概ね3年程度を目途に再建を目指してま
いりたいと考えております。

以上でございます。

上村みちよ(自民)：局長ご答弁ありがとうございました。

二の丸庭園での新たな幕開けの象徴目玉事業として、江戸時代の本物のお茶屋余芳について、
順調にいけば、およそ3年程度を目途に再建されるとのご答弁をいただきました。

二の丸庭園は全国でも数少ない現存する城郭庭園の一つであり、余芳の再建を皮切りとして、今後整備が進むことで、江戸幕府の中心であったこんにちの東京にも残っていない本物の大名庭園を体感できる貴重な場所として、名古屋城の魅力を大きく向上させることは間違いありません。

また冒頭に申しましたように、東区は尾張徳川家ゆかりの資産が残るいわば尾張藩主のお膝元ともいえる地域ですが、この素晴らしい二之丸庭園の整備によって、尾張徳川家への関心が一層高まり、より多くの方が東区に足を運ぶ契機ともなると思います。

時間はかかるかもしれませんが、一步一步着実に整備を進め、ぜひとも二之丸庭園が本丸御殿や天守と並ぶ名古屋城を代表する見どころとなるよう、国内外から多くの皆様が訪れることを心から期待いたしまして、私の質問といたします。

どうもありがとうございました。